

# 東日本大震災 - 県立図書館の取り組み -

3月11日の東日本大震災の発生以来、県立図書館では様々な取り組みを行って参りました。震災発生当初は、避難所となった複合施設である「いわて県民情報交流センター（アイーナ）」での避難所活動と県内の図書館の状況把握に努めました。4月に入ってからは、沿岸部を中心に訪問による被災状況の把握と支援活動に取り組んでおります。本号ではこうした、県立図書館のこれまでの取り組みをご報告いたします。

## 震災時の図書館の状況・避難者支援

3月11日14時46分。大震災発生により、災害の真っ只中に放り込まれた図書館内で何が起きていたのか、県及び県立図書館指定管理者スタッフの記録から1週間を再構成し報告します。

### 3月11日（金）

- ・14時46分東北関東地方を中心にマグニチュード9.0盛岡震度5強の大地震発生。県内すべて停電となる。
- ・地震発生と同時に3階、4階のスタッフは「危険ですので書架から離れてください!!」「危険ですので閲覧机の下に隠れてください!!」大声で叫びながら利用者の安全確保を図る。
- ・地震が一旦収まったところで利用者の安全を確認し、避難指示があるまで待機させた。
- ・防災管理者からの非常放送で「1、2階は1階エントランスロビーへ。3階以上の方は3階エントランスロビーに全員避難するように」との指示があり、図書館利用者はスタッフの適切な誘導により避難を完了した。
- ・しかし「3階以上の方は3階エントランスロビーに」とのアナウンスがあったことにより、4階から8階の施設利用者及び職員の方々が3階図書館内にある非常階段から続々と避難してきた。この方が最も適切に誘導し無事指定の場所に避難させ、後続の避難者がいないことを確認した後、図書館スタッフも無事避難を完了した。
- ・余震が続く中、スタッフ全員の安全を確認した。
- ・県下全域停電したが、アイーナ内は非常電源に切替えたことにより非常灯が点灯。全ての交通機関運行停止、通信手段も不通となり、スタッフをそのまま待機させる。その間に盛岡駅からの帰宅困難者や近

隣の避難者が明かりの灯っているアイーナに続々と避難してくる。19時頃には約500人に膨れ上がる。

- ・避難所対応等のため4人が泊り込み、ほぼ不眠不休で避難してくる人々へドアの開閉、案内誘導などの避難所活動などに携わる。その他の者は順次2名以上で帰宅。



[アイーナ内避難状況]

### ●児童カウンタースタッフの記録

児童コーナーは低い書架のため本の落下がなく、子どもに恐怖心を与えることが少なかったのが幸이었다。

OPACに近い家族連れは、子ども用の低い机に必死に体を隠していた。またコーナー奥にいた女児にはスタッフが付き添い、中央の閲覧机に身を隠れさせた。コーナーに他の利用者がいないか、スタッフ間で声がけをしながら巡視した。

### ●総合カウンター スタッフの記録

とっさに一人の同僚が自動扉の電源を切り、手で扉を開けたことでそこから避難する利用者もいた。しかしそういった利用者を無理に引き止めることはしなかった。地震が少し落ち着いた頃、平時と同じ心持ちで返却や利用登録をしにきた利用者がいて驚いた。

## ●音と映像カウンター スタッフの記録

利用者を視聴ブースからカウンター前へ移動。棚から資料が落ち、ケースの割れる音はかなり響いていた。声をかけながら館内放送の指示に従い、階段で3階総合カウンター前に集まり、エントランスへ避難誘導。残っている人がいないか確認。その後、上階から避難して来た利用者を誘導、6階子育てサポートセンターからの乳幼児を連れて来た方が多数いた。

### 3月12日(土)

- ・出勤することができたスタッフ全員で次のことを確認し行う。
  - ① 避難所支援を第一とし大半のスタッフが対応。
  - ② 館内の被害状況の概要を数的なことも含めて把握。併せて被害状況を写真撮影し記録。
  - ③ 県内図書館の被害状況の把握のため複数で分担し電話による聞き取り調査を実施。
  - ④ 各新聞社から発行されている号外や特集号などについて、各新聞社に提供を依頼し、記事索引を作成する。
  - ⑤ ホームページを使った震災関連情報の提供準備をする。
- ・新幹線、在来線車内で足止めされていた乗客がアイーナに避難してきたため避難者が1,000名以上に膨れ上がる。食事、毛布配布、案内などの避難所活動に大勢のスタッフが参加。
- ・自家発電の重油が底をつき停電したが盛岡市内夕方復旧。
- ・3名泊り込みで避難所活動等実施。
- ・今後の課題として次のことについて検討をはじめ。
  - ① 流通が遮断されているなか、この災害が掲載された最新の雑誌をどのように確保するか。
  - ② 県内図書館の被害の状況を調査し、記録集を作成することができるか。
  - ③ 当館の再開はいつ頃になるか。

## ●避難所対応スタッフの記録

徒歩で出勤。主にアイーナ1階・3階でのドアの開閉作業を行う。問い合わせが多かったのは、“携帯電話の電源供給場所”、“公衆電話の場所”、“買い物できる場所”、“1階から3階への通路が知りたい”など。図書館の返却本を持参して下さった方もいらした。



[アイーナ総合受付前の情報掲示板]

## ●事務室スタッフの記録

アイーナ2～4階が避難場所となっているため、その手伝いを行う(ドアの開閉、毛布敷き、毛布配り、食品配布、アイーナの総合案内で各種案内等)。図書館内の被害状況確認と写真撮影を行う。県内市町村図書館に電話で被災状況確認。つながった館17館、つながらない館47館あり。

### 3月13日(日)

- ・JRで足止めの乗客へのバス、タクシー等により秋田、青森等への移動開始。
- ・避難所図書室サービス開始。15時から17時まで図書、雑誌、インターネット、読み聞かせ等のサービス開始。
- ・地震により書架から落下した図書、ビデオ、CD等の整理復旧作業開始。
- ・震災関係の新聞記事索引等収集作業開始。図書館ホームページに震災関連情報リンク集の立ち上げ準備開始。
- ・市町村立図書館等の被害状況把握継続。
- ・2名泊り込みで避難所スタッフ活動等実施。

## ●休日スタッフの記録

ガソリンがなく出勤できず。食料品店、ガソリンスタンド等閉店多数、買い物できず。通勤の足に自転車を修理、自転車店も長蛇の列。盛岡市内は停電だったが交差点では車がゆずりあっており、道路通行では意外に混乱はなかった。役場で携帯電話を充電、待ち時間に地震後TVニュースをはじめてみて、津波・原発被害の大きさを知る。



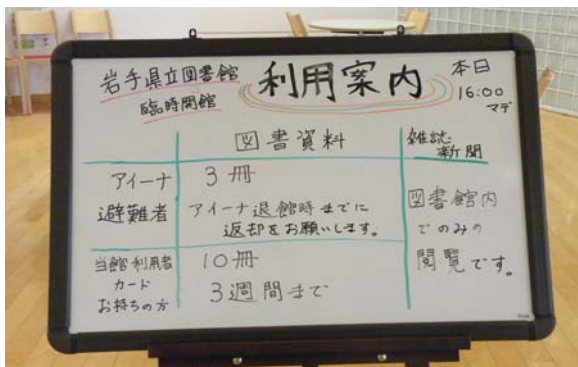
[避難所図書室サービス]

### ●事務室スタッフの記録

9時、アイーナ避難者へ図書館の一部を解放してのサービスを行うため準備をはじめ。11時30分、避難者へのお昼の給仕。15時～17時、避難所サービス開始。17時30分、今後の予定についてHPに掲載。3月15日まで休館（避難所サービスは継続）。

### 3月14日（月）

- ・避難者100名に減少。
- ・避難所図書室サービス継続。
- ・新聞記事索引、被害状況把握作業等継続。
- ・館内復旧作業引き続き実施。4階AVの被害甚大。落下した図書、ビデオ等8,913点を確認。
- ・臨時アイーナ運営協議会で全館の休館を3月31日までと決定。
- ・図書館についても31日まで休館と決定し、館内掲示、HPで周知。
- ・「東北関東大地震関連リンク集」をホームページにアップロード。
- ・県1名泊り込み。



[避難所図書室サービス案内板]

### 3月15日（火）

- ・泊り込みは県1名で対応。
- ・避難所対応、図書館諸作業継続。

### 3月16日（水）

- ・諸作業継続。
- ・避難者が減少することなどにより泊り込み活動撤収

### 3月17日（木）

- ・アイーナの避難所が解消したことを受けて、避難所図書室サービスを終了（展示した地震、防災、健康関連資料は再利用の可能性があるので撤去せず）。
- ・震災関係記事が掲載された各種新聞の収集についてスタッフに協力を求める。
- ・図書館内建物、書架等の被災箇所を点検。4階ミニシアター内の投影スクリーン収納ボックス上部破損。3階一般、児童、郷土資料の開架部分書架が地震により固定ボルトの一部破損、床との固定金具の不良等が見つかる。



[臨時おはなし会スペース]

### 3月18日（土）～31日（木）

- ・館内復旧作業、各種設備の点検、メーカーによる修理実施。

### 4月1日（金）図書館開館

- ・利用者から「図書館スタッフの適切な避難誘導によりケガもなく無事避難できました。ありがとうございました」と感謝の言葉をいただく。

(村松 昭)



## 市町村立図書館等への支援

大震災の翌日から、県内の市町村立図書館等の被害状況を把握するため、電話による聴き取り調査を行い、4月以降は直接現地を訪問し、その状況を確認するとともに支援活動に取り組んでいます。

### 被害状況調査

3月12日から電話による聴き取り調査を行ったが、建物の被害などにより連絡が取れない図書館もあり、全てを把握するまで時間を要した。

震災から1ヵ月後の4月11日から28日にかけて、被害の大きい16市町村18館を中心に現地調査を行い、そのうち、被害が大きい図書館は5月以降も継続して現地調査を行うとともに、支援活動を行っている。その訪問回数は延べ75回程を数える。

### 被害状況

県内56館のうち、被害があった図書館は49館、そのほとんどで本の落下等があり、建物にも被害があったのは約半数の25館であった。特に被害が大きい図書館は次のとおり。

#### ●津波で全壊した図書館

- ・陸前高田市立図書館
- ・大槌町立図書館
- ・野田村立図書館
- ・大船渡市立三陸公民館図書室

#### ●建物の被害が大きかった図書館

- ・北上市立中央図書館
- ・一関市立一関図書館
- ・平泉町立図書館 など

#### ●設備の破損により大量の資料が被災した図書館

- ・釜石市立図書館
- ・奥州市立胆沢図書館 など

### 復旧・復興の基本的スタンス

4月以降、現地調査を行ってきたが、その被害状況はそれぞれであり、支援の方法も市町村の復旧・復興過程を踏まえながらその状況に応じて取り組んでいく必要がある。

県立図書館としては、①被災郷土資料の修復・救済

等、②図書館資料の収集・保存・活用等を基本として、支援活動に取り組んでいくこととしている。

### 壊滅状態の図書館への支援

被災した3館の市町村は、まち全体が被災していることから、図書館職員も被災者の生活支援を最優先しており、被災直後から図書館業務がなかなかできない状況であった。そのため、県立図書館としては、近隣の市町村図書館等の協力をいただきながら支援活動を行っている。その概要は次のとおりである。

#### ●陸前高田市立図書館への支援

被害が甚大であり、図書館職員は全員死亡又は行方不明のため、図書館の再開に向けて、様々な機関から支援が行われている。県立図書館では次のような支援活動を行っている。

- ・BM（移動図書館車）の近隣市町村等からの支援の調整
- ・図書館内にあった地域の写真の仕分け作業支援
- ・大人向け実用書（家事、趣味、旅行等）の寄贈支援（県内市町村図書館等へ呼びかけ）

その他、被災した岩手県指定文化財「吉田家文書」の解読作業再開に向け、県立図書館所蔵の当該資料のマイクロフィルムを無償で複写し、陸前高田古文書研究会へ提供した。

また、吉田家文書解読に係る資料について、県内市町村図書館等に寄贈の呼びかけをしたところ、都南、雫石、花巻、久慈、種市、一戸の各図書館から支援をいただいた。



[陸前高田市立図書館 地域写真の仕分け作業]

## ●大槌町立図書館への支援

町長以下町職員が多数死亡し、図書館職員は全員無事だったものの、町の復興優先により、館長以外には他機関へ異動となり、図書館の状況が分かる人が少なくなりました。しかし、現在は、図書館の再開に向けて、様々な機関から支援が行われており、県立図書館の支援概要は次のとおりである。

### ・BMの近隣市町村等からの支援の調整

滝沢村立湖山図書館が4～8月まで(月2回)独自にBM支援を行い、その後、県立からの呼びかけに花巻市立図書館から支援(9～12月、月1回)をいただいている。

- ・寄贈図書の仕分け作業支援
- ・既存資料の仕分け作業支援
- ・システム化に伴う寄贈図書書誌データ入力指導
- ・寄付金による図書購入に係る参考リスト作成支援

## ●野田村立図書館への支援

村の中心部が特に被災したものの、図書館職員は無事であった。しかし資料のほとんどが海水に浸かり、修復作業が必要となり、関係機関と連携し支援活動を行っている。

### ・被災資料の仕分け及び修復作業、並びに寄贈図書の仕分け作業支援

国立国会図書館の職員及び近隣の久慈、山形、種市、大野、普代の各図書館から支援をいただいた。

### ・地域資料の寄贈支援

県内市町村図書館等に呼びかけたところ、都南、紫波、遠野、釜石、久慈、種市、普代、軽米の各図書館から支援をいただいた。

### ・BM支援の調整

久慈(7～3月、月2回)及び種市(7～11月、月2回)の各図書館より支援をいただいている。

その他、県立図書館のスタッフが村内3保育所で読み聞かせを実施した。

## その他の被災した図書館への支援

### ●山田町立図書館への支援

- ・BMの近隣市町村等からの支援の調整

滝沢村立湖山図書館が4～8月まで(月2回)独自にBM支援を行い、その後、県立からの呼びかけに北上市立中央図書館から支援(9～11月、月1回)をいただいている。

- ・寄贈図書の仕分け作業支援
- ・システム化に伴う書誌データ入力作業、バーコード及びラベル貼り作業支援
- ・団体貸出



[山田町立図書館 データ入力作業]

### ●アズビィ楽習センターへの支援

- ・寄贈図書の仕分け作業支援
- ・背ラベルの貼付け、蔵書印、受付印の押印、バーコード貼付け、ジャケット止め作業支援
- ・寄贈図書の配架及び開架資料選定作業支援

### ●岩泉町立図書館

- ・団体貸出及び岩手の図書館員おすすめの児童書貸出
- ・小本保育園での読み聞かせの実施

### ●釜石市立図書館

- ・国立国会図書館職員による不凍液でよごれた図書等の資料の修復アドバイス

以上、支援活動の一部を紹介しましたが、これ以外にも各図書館からは、図書寄贈などの支援の申し出をいただいているところです。

県立図書館として、被災された図書館の復旧・復興に向けて、また、被災者の方々の明日へつながる笑顔のために、関係機関と連携するなどしながら、支援活動に引き続き取り組んでいくこととしております。

(神久保 貴幸)